

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 7 部門第 4 区分
 【発行日】 平成 17 年 9 月 8 日 (2005.9.8)

【公開番号】 特開 2003-244817 (P2003-244817A)
 【公開日】 平成 15 年 8 月 29 日 (2003.8.29)
 【出願番号】 特願 2002-35863 (P2002-35863)
 【国際特許分類第 7 版】
 H 0 2 G 3/12
 H 0 2 G 3/02
 【F I】
 H 0 2 G 3/12 A
 H 0 2 G 3/02 3 0 1 C

【手続補正書】
 【提出日】 平成 17 年 3 月 11 日 (2005.3.11)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 特許請求の範囲
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

壁に形成された貫通口に臨む状態で壁裏側に配設される配線ボックスと、配線ボックス側から導出されるケーブルに接続されるコンセントやスイッチ等の付設接続器に対する取り付け部を有し、かつ、壁表側に位置する状態で配線ボックスに固定されるフレーム枠とが主要構成として備えられ、更に、フレーム枠の前面の周囲を覆う状態でフレーム枠に装着される化粧枠と、この化粧枠に対して付設接続器の特定部位が外部に臨む状態で脱着自在に装着される化粧カバーとの組み合わせ、若しくは、フレーム枠に対して付設接続器の特定部位が外部に臨む状態で脱着自在に装着される化粧カバーが備えられている電気接続ボックスであって、

前記配線ボックスと前記フレーム枠との間の貫通口内又は壁裏側、若しくは配線ボックスの内面に、熱膨張によって貫通口を実質的に閉塞する熱膨張性耐熱樹脂が設けられている電気接続ボックス。

【請求項 2】

前記熱膨張性耐熱樹脂が、壁裏面の貫通口周縁に接当可能な形状に成形されている請求項 1 記載の電気接続ボックス。

【請求項 3】

前記熱膨張性耐熱樹脂が、配線ボックスの内面全体又はほぼ全体に添設されている請求項 1 記載の電気接続ボックス。

【請求項 4】

壁に形成された貫通口に臨む状態で壁裏側に配設される配線ボックスと、配線ボックス側から導出されるケーブルに接続されるコンセントやスイッチ等の付設接続器に対する取り付け部を有し、かつ、壁表側に位置する状態で配線ボックスに固定されるフレーム枠とが主要構成として備えられ、更に、フレーム枠の前面の周囲を覆う状態でフレーム枠に装着される化粧枠と、この化粧枠に対して付設接続器の特定部位が外部に臨む状態で脱着自在に装着される化粧カバーとの組み合わせ、若しくは、フレーム枠に対して付設接続器の特定部位が外部に臨む状態で脱着自在に装着される化粧カバーが備えられている電気接続ボックスであって、

前記化粧カバーと前記化粧枠の少なくとも一つが熱膨張性耐熱樹脂で成形されている電

気接続ボックス。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明の請求項1による特徴構成は、壁に形成された貫通口に臨む状態で壁裏側に配設される配線ボックスと、配線ボックス側から導出されるケーブルに接続されるコンセントやスイッチ等の付設接続器に対する取付け部を有し、かつ、壁表側に位置する状態で配線ボックスに固定されるフレーム枠とが主要構成として備えられ、更に、フレーム枠の前面の周囲を覆う状態でフレーム枠に装着される化粧枠と、この化粧枠に対して付設接続器の特定部位が外部に臨む状態で脱着自在に装着される化粧カバーとの組み合わせ、若しくは、フレーム枠に対して付設接続器の特定部位が外部に臨む状態で脱着自在に装着される化粧カバーが備えられている電気接続ボックスであって、

前記配線ボックスと前記フレーム枠との間の貫通口内又は壁裏側、若しくは配線ボックスの内面に、熱膨張によって貫通口を実質的に閉塞する熱膨張性耐熱樹脂が設けられている点にある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記特徴構成によれば、壁に形成された貫通口を通して、壁裏側に位置する配線ボックスと壁表側に位置するフレーム枠とを固定して、フレーム枠の取付け部に取付けられるコンセントやスイッチ等の付設接続器の前方への突出を極力少なくした状態で体裁良く取付けながらも、火災発生時には、配線ボックスと前記フレーム枠との間の貫通口内又は壁裏側、若しくは配線ボックスの内面に設けられた熱膨張性耐熱樹脂の熱膨張により、貫通口を実質的に閉塞することができるから、従来のように、フレーム枠側から貫通口を通して配線ボックスに至るまでの経路中に存在する多数の隙間、及び、配線ボックスに形成されている多数の孔を通して火災や有害ガスが隣室側に流入することを抑制することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明の請求項 2 による電気接続ボックスの特徴構成は、壁裏面の貫通口周縁に接当可能な形状に成形されている点にある。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

上記特徴構成によれば、火災が発生したとき、壁裏面の貫通口周縁に接当する状態で介装した熱膨張性耐熱樹脂の熱膨張により、貫通口を壁裏面側から実質的に閉塞することができるから、フレーム枠側から貫通口を通して配線ボックスに至るまでの経路中に存在する多数の隙間、及び、配線ボックスに形成されている多数の孔を通して火災や有害ガスが隣室側に流入することを抑制することができる。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

また、前記熱膨張性耐熱樹脂が、配線ボックスとフレーム枠との隣接間に介装可能で、かつ、貫通口内に挿入配置可能な形状に成形されていてもよい。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

上記構成によれば、火災が発生したとき、配線ボックスとフレーム枠との隣接間で、かつ、壁の貫通口内に位置する状態で介装した熱膨張性耐熱樹脂の熱膨張により、貫通口をその内部側から実質的に閉塞することができるから、フレーム枠側から貫通口を通して配線ボックスに至るまでの経路中に存在する多数の隙間、及び、配線ボックスに形成されている多数の孔を通して火災や有害ガスが隣室側に流入することを抑制することができる。

【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 1 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

本発明の請求項 3 による電気接続ボックスの特徴構成は、前記熱膨張性耐熱樹脂が、配線ボックスの内面全体又はほぼ全体に添設されている点にある。

【手続補正 1 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

上記特徴構成によれば、火災が発生したとき、配線ボックスの内面全体又はほぼ全体に添設された熱膨張性耐熱樹脂の熱膨張により、貫通口を壁裏側から実質的に閉塞することができるから、フレーム枠側から貫通口を通して配線ボックスに至るまでの経路中に存在する多数の隙間、及び、配線ボックスに形成されている多数の孔を通して火災や有害ガスが隣室側に流入することを抑制することができる。

【手続補正 1 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

本発明の請求項 4 による電気接続ボックスの特徴構成は、壁に形成された貫通口に臨む状態で壁裏側に配設される配線ボックスと、配線ボックス側から導出されるケーブルに接続されるコンセントやスイッチ等の付設接続器に対する取付け部を有し、かつ、壁表側に位置する状態で配線ボックスに固定されるフレーム枠とが主要構成として備えられ、更に

、フレーム枠の前面の周囲を覆う状態でフレーム枠に装着される化粧枠と、この化粧枠に対して付設接続器の特定部位が外部に臨む状態で脱着自在に装着される化粧カバーとの組み合わせ、若しくは、フレーム枠に対して付設接続器の特定部位が外部に臨む状態で脱着自在に装着される化粧カバーが備えられている電気接続ボックスであって、

前記化粧カバーと前記化粧枠の少なくとも一つが熱膨張性耐熱樹脂で成形されている点にある。

【手続補正 19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

上記特徴構成によれば、壁に形成された貫通口を通して、壁裏側に位置する配線ボックスと壁表側に位置するフレーム枠とを固定して、フレーム枠の取付け部に取付けられるコンセントやスイッチ等の付設接続器の前方への突出を極力少なくした状態で体裁良く取付けながらも、火災発生時には、化粧カバーと化粧枠の少なくとも一つを構成する熱膨張性耐熱樹脂の熱膨張により、貫通口を壁表側から実質的に閉塞することができるから、フレーム枠側から貫通口を通して配線ボックスに至るまでの経路中に存在する多数の隙間、及び、配線ボックスに形成されている多数の孔を通して火災や有害ガスが隣室側に流入することを抑制することができるとともに、化粧カバー自体が熱膨張性耐熱樹脂で成形されているため、電気接続ボックスの壁表側での大型化を抑制することができる。

【手続補正 20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】削除

【補正の内容】